

2011年度 松蔭中学校 高等学校 学校自己評価報告

松蔭中学校 高等学校

これは分掌（各学年担任団、校務担当各部）ごとに下記要領で実施した「2011年度学校自己評価」を報告するものです。

- ① 自己評価は次の13領域（部署）ごとに実施した。
 - ・各学年団（中学1年～高校3年の6学年）
 - ・校務分掌各部（教務部、生徒部、宗教部、総務部、進路指導部、入試広報室、読書運動委員会）
- ② 評価法
 - ・年度初めに、評価対象、評価項目、実践目標等を設定した。
 - ・年度末に、実践内容について評価した。
 - ・評価は、A（よくできた）、B（できた）、C（あまりできなかった）、D（できなかった）の4段階とした。
- ③ 改善・向上策
 - ・上記評価に基づき、改善策・向上策を検討し記載した。

中学1年生

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
中学1年	学年目標	学年の目標の理解と実践	「自他を大切にすること」を目標設定の理由を説明し、具体的に実践させる。	オリエンテーションキャンプ、学年集会、クラスでのHR等で口頭で取り上げ啓発活動を行った。 学年掲示板や教室に掲示し、常に意識できるよう心がけた。	B	常に意識させるには頻繁に呼びかけることが必要である。年度後半の学年での集まりにおいて、声かけが不足していたので、年間通して話題にあげていくことが必要と思われる。
	生活指導	指導方針の確認と指導体制の推進	年度初めに方針の確認をする。	教師間で常に生徒の情報を報告し、共通の理解ができるようにした。 クラスによって指導に差がでないよう、確認しつつ指導にあたった。	A	教師間での話し合い、共通理解は十分にできた。
	学習指導	基礎学力の定着と学習意欲の向上	中学の授業形態に慣れさせ、自主的な学習を促す。	「学習のとりくみ」を作成、配布。 授業の準備にしっかり取り組めるよう連絡帳を全員に持たせた。 学習計画表を作成させ、計画的な取り組みを促すと共に、各授業で宿題を頻繁に出し、自宅学習の習慣づけに努めた。 成績不振の生徒に対して少人数での補習を考慮ごとに実施。また、希望者に対しては応用力を培うための取り組みも実施。 学習意欲を高め、校外の生徒の学習程度も意識できるよう、希望者実力を学期ごとに実施。 百人一首大会やレシテーションコンテストを実施し、意欲を引き出した。	B	年度後半、意欲の落ちてきた生徒が見られるようになった。今後も個人の実情に応じた指導、補い、働きかけが必要だと思われる。
	総合学習	地域に関する学習 進路についての学習 マナーの学習	自分が生活する地域について関心を持ち、知る努力をさせる。 現在の自分を見つめ、松蔭での今後の生活について考えさせる。 小笠原礼法を学び、基本的なマナーを身につけさせる。	1学期末から冬休み明けまでの期間を通して、「通学路マップ」の作成に取り組み、全作品を教室前に掲示。 「未来予想図」「進路ライブ」などを通して自己を振り返り、次年度へ向けての決意表明をさせた。 全7回の講義・実習を行い、学年末には復習テストを実施。	A	「未来予想図」はどの作業も熱心に取り組み、「通学路マップ」も創意工夫の見られるものも多かった。一方で「マナー」の日程の関係上、学年で足並みをそろえることが困難であり、生徒間でも共通の話題としてあがりにくい点が問題か。
	行事	オリエンテーションキャンプ 丹戸キャンプ 春の遠足、秋の校外学習	松蔭を知り、松蔭生としての自覚を持たせ、友人や教師との交流をはかる。 自然に親しみ、集団生活の中で規律を守り、協力しながら行動させる。 自然に親しむ。友人と交流を深める。	多くの先生方の協力の下、各種ゲームを行い、友達との交流を深めるための機会を作った。 リーダー協力の下、規則正しい生活やルールを守ることの大切さを伝え、また友達と協力して成し遂げる充実感を味わえる機会を作った。 天候に恵まれ春空の下、飯盒炊爨を実施。 秋には自分たちの決めたルートを班別行動。ともに友達との交流を深める好機となった。	B	生徒同士の距離が縮まり、少し緊張の取れた状態で入学式を迎えることができた。が、一方で松蔭生としての自覚を持たせるという意味では、十分とはいえない。キャンプでの限られた時間以外にもさまざまな教師や卒業生との関わりを持つ機会を作る必要があるか。

中学2年生

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
中学2年	学年目標	学年目標の徹底	中1からの継続目標として、「よく見る、よく聞く、よく考える」を、常に心がけるようにさせる。	「標語」を廊下、教室に掲示した。 キャンプ説明会など、全体で集合するときに、目標の確認を行った。 普段の学校生活の中で、その都度、不十分な生徒に対しては指導を行った。	B	「よく見る、よく聞く、よく考える」をさらに心に定着させるように、日常生活の中でも学年全体に呼びかけると効果的である。
	生活指導	指導方針の確認と指導体制の推進	学校の規定を遵守させる。年度初めに方針の確認をする。	服装規定に反する生徒に対して、根気よく注意・指導を行った。 学年共通の指導を心がけ、担任間の共通認識をもって指導にあたった。	B	日々の生活の中で、その都度根気よく指導を継続することが大切である。 注意を促すだけでなく、きっちりとした生活ができていたときには、それを評価し、ほめる姿勢も対せいつである。
	学習指導	学習意欲の向上と学力の定着	授業を大切にすることを徹底させる。 自宅学習の習慣を身につけて基礎学力をつける。	授業準備（教室移動も）を徹底させるため、休み時間から指導にあたった。 第2回・3回の実力考査の後、各教科担当者に依頼して、考査の解説授業を実施した。	B	生徒たちの意識がある程度定着するまで、しばらくの間、指導を継続する必要がある。 実力考査後の解説については、答案返却時に行うという案もあった。 テストの重要性を生徒にどう伝えていくかが今後の課題である。
	総合学習	「いのち」の学習	「生」「死」「生き方」の3つのキーワードに基づいて「いのち」について深く考えさせる。	ワークシートを用いた作業、映画鑑賞などを通じて、必要な知識を与え、「いのち」について考えさせる授業を行った。	A	生徒が自分自身のこととしてとらえられるよう、材料や展開を工夫する必要がある。
	学年行事	海洋キャンプ	1、協調性を育てる。 2、海洋スポーツの楽しさを知る。 3、自然のすばらしさを知り、自然環境の大切さを学ぶ。	海洋スポーツを通して、人との協力の大切さ、海洋スポーツの楽しさと厳しさを学んだ。また、共同生活をともにすることで、周りへの思いやりと協力の精神を学んだ。 また、大自然の中で生活し、動植物も人も皆、自然の一部であることを学んだ。	A	集団行動の時間厳守を徹底させ、静かに人の話に耳を傾けることができる集中力を身につけさせる必要がある。 指導員の方々に対する礼儀と感謝を言動でしっかりと伝えられる習慣を身につけさせる必要がある。 普段の学校生活の中で「けじめ」をつけさせる習慣を身につけることが大切である。
		遠足（5月）	自然に親しむ。友人と交流を深める。	前日の雨天により、急遽ロープウェーを利用して登山・下山を行った。山上での遊具として、バレーボール・フライングディスク・長縄を持参した。	B	他校との重なりがなければ、ロープウェーの利用も可能であったが、最後のクラスは、山上で過ごす時間が少なくなるので、山上の時間をもう少し余裕を持って設定する必要がある。
校外学習（10月）		自然に親しむ。友人と交流を深める。	午前中は、姫路城の修復現場の見学をし、午後からは、姫路セントラルパークのサファリゾーンの自由散策を行った。	A	一日に2カ所を回るのは、時間的にも、気分的にも少し余裕がなかった。1カ所滞在の方がゆっくりと過ごせる気がする。	

中学3年生

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
中学3年	学年目標	学年目標の徹底	中1からの継続目標として、「怒」を、常に心がけるようにさせる。 中3独自の目標として、「守ろう締め切り、めざそう満点！」という目標も追加する。	1、学年の掲示板と各クラスの教室に掲示し、意識付けをはかった。 2、提出物や申し込みの期日を厳守する習慣をつけるように指導。日常におこなわれる小テストを重視し、確実な準備をするように指導した。 3、教師の姿勢を一致させた。	B	それなりの意識づけはできたと思われる。
	生活指導	指導方針の確認と指導体制の推進	学校の規定を遵守させる。 年度初めに方針の確認をする。	1、学年の教師の間で、常に生徒の情報を報告し、共通の理解と指導ができるようにした。 2、クラスによって指導に差が出ないように確認しあった。 3、常に保護者との連絡を密にして、家庭の協力も得ながら指導した。 4、遅刻の多い生徒に対して、保護者と共に原因と対策を話し合うことを要望する注意文書を郵送し、返事を送付してもらった。	A	ほぼ達成できた。 職員室で、随時クラスのこと、生徒のことなどを話題にし、共通理解をふかめようとした。 ・2学期の注意書の効果はかなりあった。
	学習指導	学習意欲の向上と学力の定着	授業を大切にすることを徹底させる。 自宅学習の習慣を身につけて基礎学力をつける。	1、個人面談などで、各自の学習状況を把握し、改善点などの指導をした。 2、2学期には、昨年度同様「授業態度に関するアンケート」を、教科担当者全員に実施し、問題点を明らかにしたり、指導が必要な生徒の面談をしたり、クラス全体に問題提起をしたりした。必要な場合は、保護者にも連絡して理解と協力を求めた。その後、学年の教師が適宜授業参観もした。 3、定期考査以外に5教科の実力テストを、学期ごとに実施した。 4、夏休みに英語、数学の基礎講座・理科の実験講座、希望者の実力テストを実施した。冬休み前にも希望者の実力テストを実施した。 5、進路ライブとして、高校3年生の体験談を聴く機会を持った。	B	学校生活に慣れてきた生徒の緊張感を維持させるのは、なかなか難しいので、さまざまな方法でアプローチする必要がある。
	総合学習	平和学習	争体験者へのインタビューや、見学などを通して、平和について考える力を育てる。	1、1学期は戦争体験を聴く会 2、2学期は被爆体験の講演会、平和ミュージアムの見学。 3、3学期は「平和への提言」の作成と発表。	A	生徒は真面目に、熱心に取り組んだ。
	学年行事	スキー修学旅行	1、協調性を育てる。 2、スキーの楽しさを知り、技術を向上させる。 3、自然のすばらしさを知る。	1、団体生活での、けじめの大切さや、時間厳守の必要性を特に強調して指導した。 2、スキーでは、インストラクターの指導をしっかりと聞いて、取り組むように指導した。	B	インフルエンザや感染性胃腸炎などで十分にプログラムを楽しめなかった生徒がいた。
		遠足（5月）	自然に親しむ。友人と交流を深める。	谷上から山田道を通り、森林植物園に行った。帰りも同じコース。	A	生徒はのんびりと楽しんでいた。
		校外学習（10月）	平和学習		立命館平和ミュージアムの見学と金閣寺を見学した。	A

高校1年生

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
高校1年	学年の目標	学年の目標の理解と実践	学年目標「物事をよく考えて行動する」を理解させ具体的に実践させる。	・学年の目標を生徒に伝え、日常の様々な場面で具体的に実践させるように伝えた。	B	それぞれの行動に徐々に責任と自覚が芽生えたがまだまだ十分とは言えず、今後も指導を継続する。
	生活指導	継続的指導	学校の規定を遵守させる。	・学年教師が日常的にあきらめることなく注意を行い、指導をやり続けた。 ・遅刻をしないなど、基本的な生活習慣がつくように指導した。	B	風紀面・マナー指導など、教師が継続的に指導する。
	学習指導	学習意欲の向上と学力の向上	・高校生としての学習習慣の定着をはかる。 ・生徒の個々のレベルに応じて指導する。	・集中して授業を受けるように指導した。 ・定期考査前後を使い個人面談を行い、特に学習意欲の薄れてきた生徒には注意し励ました。 ・夏休みに進学補習を実施した。 ・英語・数学の習熟度別授業を実施した。 ・「英語特別クラス」を設置した。 ・次年度から始まる校内予備校に向け、教育講演会や模擬授業を開いて、進路に向けての意識を高めた。	B	日常の学習習慣を付けさせるために日々、指導を続けた。今後も進路に向けて、目標を持たせられるよう指導を継続する。
	総合学習	進路学習	自分にふさわしい、自分の進むべき道を選択できるように、いろいろな方面からアプローチする。	・学期ごとに次のようなテーマにそった学習を行った。 「自己理解」 「学問研究」 「将来を考える」 ・教育実習生など多くの人から話を聞き、進路を考える機会を増やした。 ・大学の先生の授業を受けた。 ・1年間の学習のまとめとして、自分の進路に関する考えをまとめ、クラスで発表した。 ・キャリア教育の一環として、卒業生を中心とした構成員からなる Blue earth 塾の実習をした。	A	教室でおこなう作業や調べ学習について内容について検討する。 生徒の希望をもとに興味ある分野を中心に取り組んだが、それだけではなく、興味がある分野以外の話を聞いたり、体験したりするなど、広く興味をもたせる。 卒業生との縦のつながりが持てたことは良かった、次年度も継続したい。
	行事	平和学習・広島	中3の総合学習から取り組んできた、平和についての考えをまとめる。	・広島へ行き、ガイドの話聞きながら、原爆資料館や様々な慰霊碑を見学した。 ・レポートをまとめ、冊子を作成した。	A	社会科などとも連携し、さらに事前学習をおこなう。
	校外学習・奈良	・世界遺産をめぐり、奈良を散策する。 ・友人との親交を深める。	グループに分かれ、希望のコースを決定し、散策した。	A	希望のコースを決定する際に、事前学習にもっと時間を使う。	

高校2年

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策	
高校2年	学年の目標	学年目標の理解と実践	学年の目標 「あとはやるのみ！～自分の目標に向かって思い描いたことを実行しよう～」を理解させ、具体的に実践させる。	進路について、生徒が自分の目標を設定し、その進路実現に向けて日々努力するように伝える。 日常の生徒との関わりの中で、教師が常に生徒の目標を念頭において指導にあたる。	B	目標と現実の力とのギャップに悩んでいる生徒に対しては、意欲を継続できるよう、生徒とよく話し合っ指導し続けていく。	
	生活指導	継続的指導	学校の規定を遵守させる。	遅刻や風紀面など、学年教師が日常的に注意を行い、指導をし続ける。	B	個々の生徒に応じて常に粘り強く指導を続けていく。	
	学習指導	学力をつけさせる	生徒の個々のレベルに応じて指導する。	進路希望によるコース別のクラス編成 英語の習熟度別授業の実施 夏休みの進学補習の実施 年3回の実力考査を実施 希望者を対象に、実力考査やマーク式テストを実施	進路希望によるコース別のクラス編成 英語の習熟度別授業の実施 夏休みの進学補習の実施 年3回の実力考査を実施 希望者を対象に、実力考査やマーク式テストを実施	A	進学補習や実力テストなど、それぞれの意欲に応じて頑張れる機会を多く設けることができた。実力テストの振り返りを行い、実力をつけさせるようする。
		進路学習	自分の進むべき進路や、来年度のコースを決定し、自分の進路に向けて努力できるように、いろいろな方面からアプローチする。	入試制度について勉強する機会を設ける。 自己推薦文や志望理由書を書く。 担任、生徒および保護者との面談を実施し、自分の進路について考える。 4月の学年集会、7月の選択説明会において、保護者と共に進路について考える。	B	以前よりも進路に関する内容を総合学習に増やすことができたが、コースなど個々の興味に応じた内容をさらに検討していく	
	行事	修学旅行	事前学習で、九州についての知識を深め、旅行への興味を持たせる。 現地では、できるだけ多くのものを見たり、聞いたり、体験したりできるようにさせる。	ガイドブックの作成を通して、九州への興味を持たせる。 長崎班別学習や島原での体験プログラムなどを通して、現地で多くの自然や文化に触れる。	A	震災の影響による東北からの場所・プログラムの変更であったが、班別行動などが多く、生徒たちは満喫していたようだ。改善の余地はまだあるので、班別の話し合いなどもっと深くまで持っていければよかった。	
		春の遠足	六甲山を登山し、神戸の自然に触れる。	登山道を歩き、カンツリーハウスで自然を満喫する。 友人との親交を深める。	A	雨の翌日でコースの変更があった。あらゆる場合の対応を考えておく必要がある。	

高校3年生

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
高校3年	学年の目標	学年の目標の理解と実践	学年の目標 「自分の目標を達成しよう」	特に卒業後の進路を定め、その進路実現に向けてのプロセスを確認し日々努力する。	A	生徒の目標を確認し、個々に応じた進路実現のプロセスを伝えることが必要である。
	生活指導	継続的指導	きちんとルールを守れるように粘り強く指導する。	・担任が中心となり、状況に応じて指導した。	B	教師全員が何度も粘り強く注意指導する事が大切である。
	学習指導	進路の研究と決定	自分の適性や関心に合致した進路を見つけ、受験へ向けて準備する。	<ul style="list-style-type: none"> ・4月の学年集会で、保護者と共に進路ガイダンスを行う。 ・4月と7月に進路調査を実施。 ・計3回の実力テストを4月、6月、9月に実施。 ・6月に希望者対象の小論文テストを実施 ・1学期に各大学の入試担当者が来校し、入試説明会を実施した。 ・卒業生が進路アドバイザーとして来校し個人的な体験談を聞く機会を持った。 ・担任との進路に関する個人面談を実施 ・7月に具体的な進路説明会を実施。 ・夏休みに担任と生徒、保護者との三者面談を実施。 ・進路に関する情報を「進路ストーリー」というプリントで配布。 	A	AO入試・指定校推薦・公募推薦・松蔭特別推薦・一般入試など入試形態が異なるため、個々に応じた進路指導が必要である。 進路指導部との綿密な連携をしながら、担任も情報を整理し的確な指導にあたる。
		受験指導	自分の進路実現のために受験に向けて準備する。	<ul style="list-style-type: none"> ・夏休みと3学期に進学補習を実施 ・計3回の実力テストを4月、6月、9月に実施。その際に数・理・社の科目についても希望者にオプションとして実施 ・6月に希望者対象の小論文テストを実施。 	B	進学補習は出来る限り個々の学力や入試レベルに応じた指導が出来るように努力する。
		チャレプロへの参加	自分の興味や関心に基づき体験学習をする。	・ブルーアースプロジェクト、体験型プログラムから1つを選択し、日常学習では体験できないプログラムを自主的に実践。	B	過去の流れを踏まえて、内容を検討する。
	総合学習	小論文を書く	自分でテーマを見つけ、1200～2000字の小論文にまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・情報検索（インターネット検索）ガイダンスを行う。 ・論文の書き方を学ばせる。 ・様々な講演を聴き、テーマ決定の一助とする。 	B	論文作成方法の定着を図る。 学習成果を個々人に還元出来るように努める。
	行事	遠足	六甲山を登山し、神戸の自然に触れる。 友人との親交を深める。	・新神戸～布引ハーブ園を登山した。	A	より良いコースを検討する。

教務部

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
教務部	教育課程	教育課程の作成	基礎的な学力を身につける。	わかりやすい授業をめざすだけでなく、小テストの繰り返し、放課後の英語教室・定期考査後の補講・補習などによって、基礎学力の修得に力を入れる。	B	ジュニアブロックで定期考査後の補講・補習の拡充を目指す。
			生徒の学力や進路に応じた、きめ細かい指導をおこなう。	英語・数学などでグレード別クラスを編成する。また、選択科目を設置して進路に応じた指導をおこなう。長期休暇には進学補習・中学補習を拡大実施した。	B	土曜日に、中学1年生対象の英会話教室、中学2年生以上対象にECC英検対策講座を実施する。また、高校2年生対象に校内予備校を実施する。夏休み中に補習週間を前後期2回設定し補習を行う。
			生徒の学力を正確に把握し評価する。	学力把握のため、定期考査以外に実力考査を学期ごとに年間3回実施する。また適宜成績を数値化して努力の成果を確認させる。さらに学習意欲の向上をはかるため、英語検定やトイックブリッジ・トイック・漢字検定などを実施する。	B	実力考査実施後の学習指導を充実させる。評価方法について再確認をすすめる。 特別支援教育について、評価・科目履修・単位修得の問題点を確認し、改善していく。
			体験的・問題解決的な学習を展開する。	総合学習において自主的な調べ学習、体験的・問題解決的な学習を展開する。高2の修学旅行、高1の広島平和学習、高3のチャレンジプログラムの挑戦など、校外でさまざまな体験・事前学習をする。	A	中学においてもキャリア教育の導入をはかる。そのために、保護者・卒業生・外部の人々の協力を求める。
研修	教員の研修	教員の資質を向上させるため適切な研修をおこなう。	昨年度発足させた「教員研修委員会」を継続し、教務の研修係2名がその委員として参加した。昨年度2クラスだった研究指定学級を中学の5クラスに拡大し、その担任の実践をもとに研修会をおこなった。教科ごとに新任教員に対する研修をおこなった。	A	教員研修委員会での活動をすすめる。 外部研修会にも積極的に参加する。	
国際理解教育	国際交流と国際理解	適切な国際交流行事をおこない、他国の歴史や文化に対する理解を深める。	今年度も、2学期に留学団体を通してアメリカ人生徒を受け入れた。中3・高1・高2を対象にニュージーランドのセント・ピーターズスクールへ短期語学留学を実施した。その事前学習としてニュージーランドの歴史・文化を学んだ。姉妹校である韓国・信明高校へ生徒を派遣し、授業参加、ホームステイなどを行った。訪問前に韓国語、文化の勉強会を行った。3学期には信明高校の生徒を受け入れし、様々な活動を通して交流を深めた。	A	2012年度の信明高校への派遣に向けて、韓国の言葉、文化の理解をさらに深める。 セント・ピーターズスクールへの派遣も引き続き行い、友好関係を継続する。	
芸術文化教育	芸術鑑賞行事	適切な芸術鑑賞行事を設定する。	2011年度は演劇鑑賞の年で、劇団わらび座のパフォーマンスバンド「響」による『アライヴ』を鑑賞した。 2012年度は松蔭女子学院創立120周年の年であるが、その記念式典と併せて、大阪フィルハーモニー交響楽団によるクラシック鑑賞を予定している。	A	年に一度の団体芸術鑑賞を設定するだけでなく、中1の「わくわくオーケストラ」といったような外部の芸術鑑賞の機会を積極的に利用し、学年単位の取り組みも進めていく。	
学校行事	適切な学校行事の設定	さまざまな学校行事において、生徒の運動能力や自主性を高めることをめざす。	運動能力向上のための学校行事として、体育祭・球技大会・春の遠足（登山）・中2海洋キャンプ・中3スキー修学旅行・冬休みスキーキャンプを設定する。自主性向上のため、中1キャンプ2回・高1広島平和学習・高2九州修学旅行等を実施する。 その他の学校行事として、文化祭・バザー・秋の校外学習などを設定する。	B	定期考査・学校行事の配列を更により良い形になるように考える。 各行事の内容を見直す。	

生徒部

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
生徒部	生活指導	生徒指導方針の確認と指導体制の推進	年度当初に生徒指導方針を明確にし、定期的に達成状況を確認する。	継続して校門指導を行い、頭髪違反者がかなり減少したが、特定の生徒が指導に応じなかった。校門指導に頼る余り、クラスでの指導が少し甘くなった。	B	朝礼時や授業時にも、すべての教員が目についた生徒に注意を与えるようにする。
		生徒の内面の理解を図る指導の工夫をする。	養護教諭やスクールカウンセラーと連携を深める。	担任と担当者の打合せが不十分であった。	B	指導上必要な情報に、正確に伝え合う仕組みを作る。
		紛失物をゼロにする。	持ち物に名前を書かせ、ロッカーの施錠を徹底する。	教科書や体操服などを配布した直後に名前を書かせることを徹底した。	A	担任が指導しなくても、自らできるように徹底する。
		服装規定の遵守	正しく制服を着用し、頭髪も自然のままにしておく。	担任・学年を中心に指導する。その上、違反者の生徒を生徒部でも指導する。	B	頭髪違反者は減少傾向であるが、特定の生徒を何度も指導した。制服を正しく着用していない生徒がまだいる状況。特に冬服時は、朝終礼時及び校門指導を含め、日常の指導を継続していかなければならない。
美化指導	登下校のマナー	交通ルール及び車内のマナーを守らせ、寄り道をしないようにさせる。	関係機関と連携し、登校指導の実施、及び補導活動（列車補導も含む）を定期的実施する。	B	街頭補導での指導した生徒数は減少している。しかし、マナーに関する苦情は多く、重点的な補導活動が必要である。	
	紛失・盗難の撲滅	教室の戸締めの徹底及び貴重品の管理を徹底する。	移動教室の際は、戸締めをさせ、貴重品（携帯電話や財布）は担任が預かる。また、校内を巡回し紛失・盗難を未然に防ぐ。	B	紛失・盗難件数はそれほど多くないが、貴重品管理に関しては、徹底した指導が望まれる。移動教室時の教室の施錠は特に注意を必要とする。生徒だけに任せず校内巡回など徹底する必要もあり。	
	校内美化・清掃に努める。	大掃除を利用し、隅々まで掃除を徹底する。 教室、トイレをきれいに保つ	大掃除の際、普段できない雑巾がけや窓拭きなどを徹底する。 学校リニューアルに伴い、教室、トイレが新しくなったので、掃除の仕方を指導し、きれいに保つようにする。	B	学校が綺麗になったことにより、生徒の美化意識も高まり、教室の掃除がよく生き届くようになった。	
	ゴミの分別の徹底とリサイクル活動の推進	美化委員が中心となり、リサイクル活動を行う。 ペットボトルのゴミの減量化を行う。	美化委員と教員がリサイクル活動を毎週、火曜日と金曜日に行う。 ペットボトルのゴミを持ち帰るよう呼びかけを行う。	B	美化委員と教員でリサイクル活動を行った。ペットボトルの持ち帰りはあまり徹底できなかった。	
生徒会指導	生徒会活動の活性化	生徒会活動に興味・関心が湧くようそれぞれの活動に工夫を凝らす。	H Pによる活動報告の活性化。 エコキャップ運動など、近年取り組み始めた活動の充実。 あいさつ運動の拡充。 校外清掃活動の回数の増加。 東日本大震災被災者支援活動の実施。	B	それぞれの活動は地道に取り組んではいたが、一般の生徒の認知度は低い。清掃活動やあいさつ運動が生徒会での活動が校内において、ひろがりを持つようにしていきたい。	
	学校行事の充実	体育祭・文化祭をよりよいものに変えていく	体育祭運営をよりスムーズに行う。競技やグループ分けについて検討する。 文化祭はテーマに基づき、それぞれの舞台演技・展示の充実を図る。また、その他学校行事において積極的に参加するとともに生徒会としても生徒の自治能力を向上させる。	A	体育祭に関して、2学期末にアンケート調査を行った。体育祭のグループわけについて再度検討する。	
	各委員会の積極的な活動	評議・執行・美化・保健・特別の各委員会に目標を持って生徒主体の活動を目指す	ゴミの分別を確実に行う 色や匂いが与える心理的影響についての知識関心を深める。 生徒会関係冊子の充実を努める。	A	それぞれの部署で積極的な取り組みが見られた。生徒会活動と同様、一般生徒の認知度を上げていきたい。	

安全教育	防火管理体制を整え自衛消防に努める	年3回の避難訓練の実施を目標とし、教職員および生徒の防火意識を高める。	生徒に連絡する訓練と抜き打ちとする訓練とを行い、それぞれの場合できちんと避難できるようにする。また、教職員対象に火災報知器訓練を行い、各教職員が対応できるようにする。	B	天候に恵まれず、避難訓練は2回のみとなった。また、リニューアル後の火報器の操作の再確認が必要。
	校内危機対応意識を高め、不審者の対応に努める	それぞれの役割を把握し、不審者対応講習を行う。	中学1年生に防犯教室を実施する。また、教職員は、校門指導・下校指導と連動し、不審者から生徒の安全を確保する。	B	教員、生徒ともに安全意識を確認する。
	自転車通学者への安全の意識を高める	自転車通学者に年1回の講習を行う。	自転車通学者リストを作成し、対象者に自転車交通安全講習会を行う。自転車に乗ることは、交通被害者にも加害者にもなるということを自覚させる。	B	講習対象生徒が一度に集まらず、何度も追加講習を実施した。安全に関わることなので、講堂での一斉講習も考える。
	応急処置の意識を高める	緊急時に正しく的確な応急処置ができるようになる。	年一回、AEDを用いた心肺蘇生法の講習会を行う。継続的に講習会を行うことで、より新しい情報を取り入れ、各教職員の応急処置の技術・知識を向上させる。	A	毎年継続して万が一のときに備える。
	応急処置の意識を高める	緊急時に正しく的確な応急処置ができるようになる。	年一回、AEDを用いた心肺蘇生法の講習会を行う。継続的に講習会を行うことで、より新しい情報を取り入れ、各教職員の応急処置の技術・知識を向上させる。	A	毎年継続して万が一のときに備える。
性教育	実態に応じた性教育の推進	性についての知識の浸透を図り、教科・学年と連携をとりながら、目標を掲げて取り組む。	中学2年生と高校2年生に性教育講演会を実施する。性に関する問題・現状を知り、思春期の心身の発達を理解する。また、性教育のあり方を再度検討する。	B	中学2年生と高校2年生の講演をいのち語り隊による「いのちの教室」で連携させることができた。さらに性教育を6年一貫教育として系統立てて取り組めるようにする

宗教部

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
宗教部	日常礼拝の実施	奨励の当番表の作成	各学年等に奨励の当番を割り当てる	当番学年への事前連絡 聖書朗読者の名前を確認し、朗読箇所を知らせる作業が遅くなりがちだったが一応理解された。	B	今後、お話をしてくださる方が偏る点を改善し、誰でもお話いただける雰囲気をもっと作っていこうにしたい。
		オルガニスト手配	オルガニストを手配し、出来るだけ早くに聖歌番号を決定	新聖歌集が配布されてから、少しずつ新しい曲も浸透してきているように思う。	A	新しい曲も、しだいに浸透するようになってきている。
		生徒の参加に関する指導等	礼拝をよい状態で受けることが出来るよう工夫する	礼拝前に聖歌の練習なども行い、黙想など礼拝を始める雰囲気を作った。	B	生徒に歌わせるように、礼拝へ積極的に参加できるように継続して行う。
特別礼拝の実施	説教者選定	ふさわしい方を選定依頼	いろいろな方面から説教者をお願いして有意義な話をしていただいた。	A	これからも多くの人脈を得られるよう努力を続ける。	
	オルガニスト・聖歌隊手配	併せて聖歌の決定	各クラブやオルガニストの方からアプローチをかけてくださった。	A	各方面と連絡を密にとり、これからも継続していく。	
	式次第作成	説教者や聖歌隊と連絡を取り、式次第・式文を作成	各々の式にふさわしい選曲、聖句やお祈りなどを選択できた。	A	よりいっそうの研鑽を続けて行きたい。	
宗教週間の諸行事実施	各種プログラムの企画立案	生徒が参加したくなる、そして宗教週間の主旨にあうプログラムを考える。	キリスト教に関連する本やグッズ、パンの販売を企画した。クリスマスの飾り作りも行った。	A	情報宣伝活動をより積極的に行って生徒に訴えかけ、さかんに参加するようすすめる。	
その他礼拝	参加自由礼拝の企画	親しみやすい集まりを持ちキリスト教に興味を持ってもらう。	お誕生日礼拝、逝去者記念礼拝、震災記念礼拝、キャンドルサービスなどを行って、ずいぶん参加者も増えた。	A	これからも積極的に生徒へ呼びかけて、広めていきたい。	
各奉仕活動の実施	特別養護老人ホームきしろ荘関連	施設との話を密にし、利用者、生徒共にプラスになる様プログラムを考える	年2回の喫茶サービス、クリスマスの飾り付けを企画した。関係クラブや生徒会にも協力を要請。	A	積極的に生徒会や有志生徒や茶道部の部員も参加してくれた。	
	真生乳児院関連	施設との話を密にし、利用者、生徒共にプラスになる様プログラムを考える	1, 2学期を中心に年2期(12回)の育児体験を企画。広く応募を呼びかけて参加を促した。	A	今年度も多くの生徒が参加希望をし、年2回の各々の参加日も期待されている。	
人権教育活動の実施	生徒向けの人権研修の企画立案	今の諸問題を的確に生徒に伝えることが出来るように留意する	生徒向け人権映画として『Colorful』を鑑賞した。ジェンダーフリーをあつかったリーフレット「ちょっと大事な話」を配布。	A	生徒からの感想も率直なもので好感度である。今後も啓発を続けて行きたい。	
	啓發文書の作成	大切なことをわかりやすく伝えていく。	人権映画鑑賞にあわせて映画の解説・見所などを掲載した『チャペルニュース』を発行。事前に礼拝でも問題提起する機会を持った。	A	型どおりではなく、いろいろな意見を持つよう準備でき良好。これからも継続したい。	
	教職員向けの人権研修の企画立案	教育を行う上で大切な人権感覚を養うことが出来るように考える	全員研修として講演会を予定したが、翌年度回しになった。リーフレット「ちょっと大事な話」や映画で教員の理解を深めた。	B	生徒と同時に教員の啓発活動も行っていくうえで問題に対する深い洞察力を養いたい。	
宗教教育に関するプログラム実施	様々な場面で行う宗教教育プログラムの企画立案	キリスト教への興味関心を持たすことが出来るよう考える	神戸教区主催の広島平和礼拝に参加するプログラムを企画。また、教会の礼拝やバザーに参加、ボランティア引率することも企画。	A	今年は参加者が減少したが、次年度もっと参加を呼びかけたい。	
啓發文書の発行	青谷編集発行	キリスト教に関連する意見や思いを幅広く収集編集していく	例年の編集方針に従い、原稿依頼し、発刊した。	B	概ねスムーズに原稿が集まった。広く一般教職員からも原稿を集めたい。	
	各種文書発行	時に応じて様々な文章によってキリスト教を伝えていく	各行事の連絡を兼ねてチャペルニュースを発行した。年間計8回発行した。	B	行事の時だけでなく定例化を毎月生徒に配布めざす。	
	聖句の教室掲示	教室掲示により聖書に親しみ、多くの箇所を読ませる	月1回の発行を目標に、書道部の協力で作成。教室掲示することができなかった	B	今後も理解しやすい聖句を選び、生徒に浸透させたい。	
関連諸団体との連携	献金・人的支援・その他	関連諸団体及び彼らが関わっている現場の状況を把握し、適切なサポートを考えていく	今年は東日本大震災の被災者、ワールドビジョンジャパンに献金し、活動を行った。	A	必要とする所に献金、人的支援をこれからも続けて行って行きたい。	

総務部

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
総務部	住所管理	個人情報の管理	住所等個人情報を正確に把握し、変更があった場合には速やかに変更する。	変更の書類が来た際は写しを取り、ストックする。書類は事務所の担当係が打ち込み、随時、総務部係がチェックした。	A	事務室から受け取った写しの整理に努める。
	校内施設	各教室の管理	教室の机・椅子の数の把握。	不良品、修理の必要なものを適宜交換する。	A	教室の机などを定期的に点検する。新規購入に向けて早めに発注計画を立てる
		空き教室の有効利用	放課後校内で行われていることから（部活動・補修など）を掌握する。	月初めに職員室に「放課後教室利用一覧」を貼りだし、各責任者に記入してもらった。	B	各責任者に書き込みの徹底を促すとともに、通常活動の一覧を作成し、記入を簡素化する。
		施設使用状況の把握	校内施設の使用状況を各部署に連絡する。	月末に職員室、事務所、管理職員、守衛の4部署に使用状況一覧を配布し、周知をはかった。	A	各部署からの報告の把握に努める。校内イントラネットで掌握ができるように努める。
		不良箇所の補修	様々な事柄に職員との連携を心がけて速やかに対処する。	できるだけ早く職員に連絡を取るようになった。必要な場合には業者に修理を依頼した。	B	定期的に、校内の見回りをする。修繕可能かどうかの見極めを適切にする。
情報機器管理	情報機器管理	パソコンの設定・管理を随時行う。	新職員室を含めた新PCネットワークの仕様確定・立ち上げ。立ち上げ後の、各種設定を業者と共に行った。	A	ネットワークのセキュリティ面で問題がないか、日常的に検証を行う。講師室のネットワーク構築についても検討する。	
管理・美化	校具・消耗品・清掃用具等の購入・分配	清掃用具・備品の補充、補修を適宜行う。必要な備品の検討・購入	生徒の清掃に関わる品物を総務部が購入、必要に応じて分配した。改修工事でトイレが改装されたため、清掃用品を一新した。	B	定期的に在庫の点検をする。ある程度のまとまった量を購入し、コストダウンを心がける	
	事業系ゴミの排出	ゴミを分別回収する。学校を清潔にするように努める。	指定ゴミ袋に分けて排出した。古紙類・ペットボトルなどは業者に回収を依頼した。産業廃棄物などは業者にたびたび依頼して排出した。	B	紙類の分別ができないか検討する。	
視聴覚	視聴覚備品の管理・購入	備品を管理し、計画的に購入する。	必要な時に機材がすぐ貸し出せるよう視聴覚室を整理した。 機材の貸し出し予約方法を改めた。	B	視聴覚室の整頓を徹底する。	
広報	ホームページ（学校の広報）	分かりやすい内容に努める。定期的に更新する。	ニュース、情報をできるだけ早く更新した。情報を見やすくすることを心がけた。	A	リニューアルしたHPをより魅力あるものにしていく。 トップページのデザインを検討する。	
	ハンドブック（校内のルール・約束事の周知）	訂正ゼロを目指す。	各部署に原稿の作成（訂正）を依頼し、3月中旬に納入できるよう努めた。	A	変更点や追加点はハンドブックに関わるかどうかその都度確認する。	
	学校報（一年間の学校の記録）	記録として分かりやすい内容にする。	1年間の正確な記録を集め、一学期末の発行に努めた。	A	写真や資料も積極的に増やしていく。	
	教育の広場（教職員の声）	一年を象徴する声を掲載する。	トピックスを検討し、教職員の原稿の回収に努めた。	A	記事内容が偏らず、読み易い誌面になるように、工夫していく。	
資料	写真などのデータの一元化、資料の整理・保存	学年で撮影した写真のデータを集約する。また、資料を計画的に保存する。	写真データ収集を各学年に依頼した。古い資料の整理に努めた。図書館にも依頼し、重要なものの移管を実施した。ビデオテープを業者に依頼し、DVDで見られるようにした。 資料リストの作成をした。 資料の貸し出し方法を改めた。	A	古い資料の整理を進め、系統的な整理に努める。今後の資料の整理・保存についても検討する。	
その他	業者との連絡依頼を速やかにする。	依頼を受けた後できるだけ早く対応する。	業者とは連絡を密に取るように努めた。優先順位を付けて、必要な箇所から手を付けていった。依頼を受けた部署に対しては結	B	頻繁に故障して修理がしにくいものに関しては定期的なメンテナンスや買い換えなどを	

				果報告に努めた。		推進する。施設管理職員・事務職員と協同して仕事を円滑に進めるよう努める。
		式典・学校行事	職員との連携をはかりつつ、会場等の準備を適切に進める。	設営等は職員にあらかじめ依頼内容を添付し、作業してもらい、終了後点検を行った。	B	設営作業がスムーズに行くように式典前の講堂使用について気を配る。
		バザー	当日に至る準備、生徒・教職員に対する内容の周知をはかる。	リユース食器の利用、レンタル器具の活用、PTA や同窓会、ゴミ回収業者との打ち合わせを密にすることを心がけた。	B	リユース食器などにかかる諸費用の抑制に努める。ゴミそのものが少なくなるようなバザーの在り方を検討する。雨天時の対策を検討する。
		緊急連絡網の補い	休校などの緊急連絡が円滑に回るよう努める	必要な場合、メールによる緊急連絡を実施するようになった。	B	送信内容の精査・使用範囲について検討し、効果的な使用ができるようにする。計画的にテストメールを配信する。

進路指導部

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
進路指導部	進路指導	進路指導体制の充実	目標や夢を持つことと、目標達成に向けて努力していくことの大切さを伝える。	中学段階での進路指導の充実。	C	総合の時間の柔軟性のある使い方や、学年内の部の教師の体制充実が不可欠。
			中高6年間のそれぞれの発達段階に応じ、進路指導部と学年が連携しつつ、体系的な進路指導を実施する。	各学年の進路指導部の教員を中心に、進路指導部の体系的な指導の実現を図った。	B	総合の時間や、学年内の部の教師の体制充実が不可欠。
		進学指導の充実	総合的な学習を利用して、学問・大学研究をし、高校卒業後の進路に付いて早期から考える。	昨年度抜本的に見直した高1総合での進路学習を継続的に進めていった。	B	今年度の生徒の取り組みも踏まえ、次年度も今年度の内容やテキストを生かしたい。
			進路状況について分析を行ない、進学指導に生かす。	進路分析を進路指導に生かすべく努力した。	B	過去のデータと現在の生徒の実力を比べつつ指導していく。
		キャリア教育の充実	受験指導だけではなく、大学のさらに後の社会での生き方を考える機会を与える。	高1・高2で職業ガイダンスを行ったが、生徒たちは興味関心を持って取り組んでいた。	B	職業ガイダンスは次年度も継続したい。
			職場体験をすれば勤労意欲の向上というような単純な考え方をせずに、創意工夫して、社会や自然とのつながりを実感しつつ、その後の人生で生きていく力につながるような気づきの機会を与える。	BlueEarthProject の OG を活用した BlueEarth 塾を校内でも実施し、高2で社会貢献バザーを考え実施したり、高1で社会とかわるとは何かを考え会う機会を持った。BlueEarthProject は今年も充実した内容を実施した。	B	社会的にも評価を得て、ノウハウや協力先を構築しているこの教育活動を、今後も充実を図るとともに、今後も下級生にも生かしていきたい。

入試広報室

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
入試 広報 室	生徒募集 関連事項	オープンスクール	小学生・保護者が本校の教育活動を体験・見学することで本校入学を志望するようにし、併せて入試に向けての学習動機付けとする。	参加により本校受験を決定したという声が例年多数あるので、体験授業内容・クラブ見学・大学での昼食などの一層の充実をはかった。	A	スケジュールが厳しいようなので、もう少しゆったりとした内容を検討する。
		学校説明会	主に小学6年生保護者に対して入試の詳細について伝達し、併せて受験意志を固めさせる。	9～11月に3回実施し、礼拝も含め本校の教育内容を的確に説明した。	A	動員をより増加させるよう広報を充実させる。
		クリスマスの集い	冬のオープンスクールのイベントとして小学生に本校のキリスト教主義学校としての雰囲気を経験してもらう。	多数の参加者を得た。盛会であった。事故がないことを第一の目標とした。	B	本校スタッフ（教職員・手伝い生徒）の事前打ち合わせを十分行う。
		思春期母親学講座 中学受験セミナー	年度初めての広報イベントとして入試結果を報告すると共に、スクールカウンセラー講演などにより本校が生徒のこころの理解に努めている点を紹介する。	ホームページでも参加を受け付け、小学生の保護者の方と一緒に考える機会として定着してきた。	A	小学生の保護者の方が、不安に思っておられることや、知りたいと思っておられることを的確に伝えていく。
		校内個別相談会 学校見学会	入試直前の12月に校内での説明会を企画し、受験生・保護者への最後のアピールを行い、志望校未定者を志願、受験につなげる。	個別ブースを設置、また展示コーナーや資料コーナーを設けた。グループごとの施設見学も行った。	A	2回目の実施で、昨年の反省から対応スタッフを増やし、比較的スムーズに対応できた。
		学外のブース式説明会	主に保護者からの本校への質問に効果的に答え、受験意欲を喚起する。	可能な限り各会に参加し、保護者の本校に対する疑問・質問に対して的確な説明を心がけた。県下9女子校（小林聖心・神戸国際・神戸山手・親和・武庫川・百合・甲子園・園田・及び本校）による「女子教育セッション」を学校共催イベントとして企画・実施した。	A	保護者と直接話す機会を増やし、現場教員の「顔」の見えることをより可能にしていく。
		学外の講演形式説明会	受験意欲を喚起し、校内での様々なイベントへの参加を促す。	塾主催等の会で本校の教育内容や特色が的確に明示される内容を企画した。 3月に「灘区女子3校合同説明会（神戸海星・親和）」を実施した。	A	特に他校との合同説明会では、本校の特色が際立つプレゼンテーションを目指し、誘引力を高める。
	個別の学校案内	個別案内の機会を持ち丁寧な対応によって教育活動を紹介する。	訪問者に対する学校側の窓口として適切な対応を心がけた。	A	スムーズな対応・説明を心がける。また担当者がどのような質問にも対応できるようにする。	
	情報提供 関連事項	学校案内冊子など	教育内容、卒業後のイメージを的確に伝達できるようにする。	スクールガイド内容を一部更新し、本校の現在の教育活動や校風が的確に表現されるようにした。	A	最新かつ的確な情報伝達の媒体とし、学校の魅力を十分伝える。
		DVDなど視聴覚物品	本校生徒の様子を的確に伝達する。	放送部に学校紹介DVDの作成を依頼し好評を得た。	A	より魅力ある映像をつくる。
中学受験雑誌記事など		本校教育活動を的確に伝達する。	記事原稿作成に協力した。	A	積極的な広報を行う。	
新聞雑誌記事掲載など		本校教育活動の紹介と入試関連日程の紹介。	本校の教育活動の紹介手段の1つとして積極的に掲載依頼を行った。	A	積極的な広報を行う。	
新聞雑誌広告・看板		本校教育活動の紹介と入試関連日程の紹介。	費用対効果も勘案しつつ雑誌・新聞広告、駅校内看板の作成・業者への依頼を行った。	A	積極的な広報を行う。	

	学校ホームページ	入試広報活動の一環として受験を検討する資料となるような内容を提供する。また入試広報イベントの告知・申し込みなどに活用する。	「入試ガイド」のページを中心に入試関連情報・イベント日程などを掲載した。また学校ニュースの掲載にも協力した。	B	総務部ホームページ係と協力しあい、学校の最新情報を発信する。
	ノベルティグッズ等	受験生が魅力を感じるグッズの提供をはかる。	制服クッキー・ファイル・ハンドタオル等本校独自のグッズを製作した。	A	本校の特色に合致したグッズで、小学生に喜んでもらえるものを検討する。
学外教育機関への広報	塾訪問（全教員）	塾とのパイプを強化すると共に、本校教員が中学受験の現状を知る機会とする。	新入生塾アンケートよりリストを作成し訪問を実施。1名につき1塾～2塾を担当した。	B	引き続き訪問活動をすすめる。
	塾訪問（入試広報担当）	大手・中堅塾を中心にパイプを深め、より多くの塾生に本校受験をすすめてもらう。	年間を通じて複数回の訪問を実施し広報・入試相談を行った。	B	引き続き訪問活動をすすめる。
	塾対象説明会	本校の教育内容を説明し、小学生・保護者に本校入学を推薦してもらう。	外部会場で実施した。	A	本校の教育内容について周知する機会として拡充させる。校内での実施も検討する。
	模擬試験会場	受験生・保護者に対して本校をアピールする機会とする。	保護者控え室を設け個別相談会を実施。	B	同一日に説明会の実施を検討する。

読書運動委員会

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
図書教育	読書指導	全校読書運動	読書習慣をつける	読書運動委員会で今年度の全校テーマを決める。今年度は「エネルギー」。テーマにそった各学年教師による推薦図書リストを参考に本を選ばせた。リストには紹介文も掲載した。	B	多くの教師にも読書への意欲を高めるための協力をもとめる。
				各学年で、読書後の課題を設定しとりくんだ。	A	課題に対する工夫がみられる優秀作を図書館で展示しているが、さらに周知する。
			読書感想文をかく 第41回全校読書運動冊子配布	国語科中心で各学年課題図書を定め、感想文をかかせた。 校内読書感想文コンクール・兵庫県私学読書感想文コンクール出品 全校読書感想文コンクール優秀作の感想文などを載せた冊子を配布した。	B	現在、本校生徒にはいないが、コピペなどからの盗作対策を考えていくことも必要となる。
			ゴールドカード表彰	1年間に50冊以上図書館の本を読んだ生徒を表彰（1月アセンブリー） 賞状とブックカバー	A	中学でゴールドカードを獲得した生徒の高校からの読書数の多い生徒への対策
			調べ学習での活用	総合学習の研究に必要な図書を見つけて、調べる。	各学年のテーマに応じた関連図書をコーナーにまとめて展示し、わかりやすくした。 図書や資料の見つけかたや調べ方、マナーも含めてプリントしたものを作成し、配布するし、積極的な活用ができるようにした。 進路学習（高1）では、大学・学部などの調べ学習に図書館も利用した 修学旅行（高2）では総合学習でのし	B

			おり作り、夏休み宿題でのテーマ別ガイドブックの資料を作成した。 自習時間を利用した調べ学習（中2保健）も行った。 論文を書く際の情報収集と注意点について、図書館で、司書によるレクチャーをけた（高3対象）。		
	図書館の活用	図書館利用のルール	新入生に対して、オリエンテーション 日常の利用でのきめ細かい指導をした	A	オリエンテーションだけでは時間不足気味なので、別の機会をみつける。
		広報	はと時計の発行 本の紹介をはじめ、 図書館クイズ、各種イベントの案内をした。	A	毎号充実した内容で魅力ある 図書館情報をめざす。
			図書館で絵本ボランティア、しおり作り、 カボチャのランタンづくり、クリスマスリースづくりを企画実施した。 おひな様展示のため、ボランティア生徒 とともに飾り付け	A	積極的かつ楽しく活動できる機会をさらにつくりたい
		司書体験	高3対象チャレンジプログラムの1 として	A	図書館内部の仕事にふれるよい 機会としてとらえている。
		ブックリサイクル	司書体験活動（宗教週間）の一環として、 不要になった本を持参してもらい 売却した利益を寄付。	B	この企画を恒例企画として、さらに 周知し定着させる
選書	選書	生徒、教職員に必要とされる図書 の充実	図書教育係と読書運動委員（各学年1 人）による定期的な選書を行った。 各学年担当の教師にも可能な限り選書 に加わってもらった。 書店へ出向いての選書（全教職員、教 育実習生対象）を企画、実施した。 高3のチャレンジプログラム（司書体 験）の一環として書店での選書を体験 リクエスト本の審議を随時行った。	B	幅広い選書をめざし、多くの教 職員からのリクエストを知る 機会を増やす。